

第7節 障害者福祉の主な課題

当日資料

※参考資料1 赤字が修正部分です。

①社会参加の手段の確保

障害のある人が、積極的に社会参加していくためには、公共交通や駐車場などの利便性の向上が欠かせません。また、外出時に支援を必要とする障害のある人の割合が高いことから、障害に応じた外出支援の充実が求められます。

②障害のある人が地域で暮らすための理解の促進

障害のある人が地域で安心して暮らしていくためには、周囲の理解と協力が欠かせません。

家族をはじめ、地域の方々が障害の特性について理解を深めたり、障害のある人が意思決定の場に~~参加~~できたりするなど、障害のある人もない人も、ともに生きる仲間としてお互いが理解し合える取組みが求められています。

地域移行を進めるうえでも、こうした取組みの充実を図ることが重要です。

③福祉人材の確保・育成

障害のある人の多様な状態やニーズを的確に把握し、対応するためには、専門的な知識や経験のある人材の育成が欠かせません。

相談支援専門員やサービス提供事業者の職員の質的な向上を図るためにも、研修や研修情報の積極的な提供が求められます。

また、この分野での人材確保にあたっては、仕事に対する生きがいや魅力を持ってもらえるよう~~啓発~~を図ることが重要です。

④就労環境の充実

障害のある人が、障害の特性に応じた働き方ができるような支援が求められています。

~~また、企業職場~~では、経営者から従業員までの誰もが障害に対する理解を深め、雇用機会を拡充させていく必要があります。さらに、~~通勤などの~~就労に伴う~~通勤などの~~課題に対して取り組んでいく必要があります。

また、ハローワークや但馬障害者就業・生活支援センターなど関係機関と連携を図り、一般企業への就労へつながった方が職場で長く働き続けられるよう定着に向けた職場への支援が重要となっています。

障害者雇用率が~~引き上げられています~~が、障害者が希望する職種への就労ができていない場合があり、希望職種とのマッチングを進める必要があります。

⑤障害者虐待等の防止

虐待は、障害のある人の尊厳を害するものであり、障害のある人が、自立し社会参加していくためには、障害者に対する虐待を防止することが極めて重要です。

また、虐待については、関係者間の密接な連携による早期発見・早期対応が望まれます。

⑥災害対策と準備

近年、激甚化する災害に対して、事前に取り組み可能な対策や準備を進める必要があります。

少しでも迅速に避難し安全を確保するには、日頃からの意識啓発や積極的な声かけも重要となります。また、災害時の避難の仕方は、障害の特性により異なることから障害のある方がストレスなく利用できる避難所を確保するとともに、自宅等も含めた適切な避難方法が求められます。

地域、行政、関係機関などがそれぞれの役割を持ち、協力して迅速な避難行動をとることができる体制づくりが求められます。

⑦居場所づくり

障害のある人が、いつまでもいきいきと暮らしていくためには、出会いや良好な人間関係を築ける場が重要です。

そこに行けば、顔見知りがいいて、身近な地域で情報の交換や悩みを打ち明けられるような居場所が必要です。

また、障害のある人が気軽にさまざまなコミュニティ活動に参画できるよう、地域の関係団体との連携が求められます。

⑧障害の早期発見から切れ目のない支援の充実

障害者やその家族が抱える様々な課題やニーズを丁寧に聞き取り、最も適切なサービス利用につなげるためには、相談支援体制を充実することが必要とされています。

障害の発見は幼少期からわかる場合もあれば、発達障害などでは大人になってからわかる場合もありますが、障害のある人の将来を考えると、早期発見が重要であり、就学や就労、地域での生活、また、自立した暮らし方など、本人や家族への切れ目のない支援の充実が求められます。

⑨関係機関による連携と情報共有

障害のある人が地域で自立して暮らしていくためには、医療、福祉、教育、就労、地域などの場面に関係する機関や団体等の連携と情報共有が必要とされています。

また、障害のある人の課題や状況は様々であるため、医療、福祉、地域などの関係機関による連携を強化し、地域の実情に応じた社会資源の整備に向けた取組みを進めていく必要があります。障害のある人の自立した生活を進めるための諸制度について、関係機関との連携のもと、調査・研究が必要です。